

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

【観点到る状況】

本学の目指すところは教育目標（別冊資料 B 学生便覧 P5）に示すように、学生に専門性、行動力、実践力、学習意欲、幅広い教養と高い倫理観、判断力・総合力、問題解決能力、創造的展開能力等を身に付けさせることにあり、これらの達成状況を検証・評価する方法としては総合力を問うゼミナールが最も適している。本学は性格の異なる 3 学科から構成されているので、達成状況の検証・評価方法の一元化は難しいが、各学科ともゼミナールの達成状況を、教員が検証・評価する仕組みを導入している。

産業情報学科では、卒業研究発表会を外部にも公開しており、外部関係者からの評価も参考にできる仕組みとしている。卒業研究に関しては発表会の他、経営情報コース卒業論文要旨集 (<http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/141.html>)、デザイン情報コース卒業研究発表会研究要旨集 (<http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html>) 及び作品集の発行、卒業展などが行われている。さらに、地域に密着した研究の場合、当該地での発表会、各種デザインコンペティションへの協力なども行い地域に研究成果を還元している（別冊資料 C 自己点検・評価報告書 P83「学生参画型実学・実践教育の推進」、各種デザインコンペティションや美術展の入賞状況については<http://www.jc.u-aizu.ac.jp/11/142.html>に掲載）。

食物栄養学科では、栄養士免許のほかフードスペシャリスト受験資格及び栄養情報担当者認定資格を取得できるように平成 18 年度にカリキュラムを改正した。栄養士免許に関しては全員が取得を希望しているので、2 年時には全員に「栄養士実力試験（栄養士養成施設協会主催）」を受験させ、その結果に基づき達成状況を検証・評価している。フードスペシャリスト資格については、資格試験が卒業年度の 12 月に前倒して実施されるので、資格取得希望者全員に試験を受験させ、その合格状況により達成状況を検証・評価している。また栄養情報担当者資格については、2 年後期の「健康栄養情報論Ⅱ」の期末試験を栄養情報担当者認定試験と同様の形式で行うことにより達成状況を検証・評価している（前出表 3-7 シラバス URL 一覧）。

社会福祉学科では、社会福祉士国家試験受験資格及び保育士資格の取得状況が、人材育成の達成状況を検証・評価するための一つの指標となっている。また、2 年次からゼミナール形式での特別演習（卒業研究）を課しており、その成果を卒業研究論文集として発行している。卒業研究は、社会福祉要支援者に対する調査を基本として取り組ませるものも多くみられ、当該団体等に配布することで成果を還元し評価を受けている。そして、学科内公開形式による卒論発表会を開催し、報告要旨を基に発表させている。これは、当該ゼミ担当以外の教員や学生の参加が可能な仕組みとしている。

【分析結果とその根拠理由】

本学学生に対する教育の達成状況は、資格取得という明確な結果の伴う学科ではそれを軸に検証・評価していると同時に、それ以外の学科では卒業研究を主要な軸として、発表会の開催や外部関係者からの評価等によって検証・評価している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作等を課している場合には、その内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

平成 17 年度から 21 年度までに入学した学生の動向をみると、2 年間で卒業する割合が 92.6% (622 人/672 人：2 年卒業生数/H17~20 入学生数)、留年や休学で卒業が遅れる割合が 3.4% (17 人/504 人：遅卒業生数/H17~19 入学生数)、退学者の割合が 3.5% (29 人/834 人：退学者/H17~22 入学生数) となっており、95.1% (639 人/672 人：卒業生数/H17~20 入学生数) が必要単位を取得して卒業している (表 6-1)。

表 6-1 平成 17~22 年度入学年度別修学状況

(1) 平成 17 年度入学生

単位：人

	入学生	H18 年度 卒業生	H19 年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	76	73	1	74	0	2
（経営情報コース）	(44)	(41)	(1)	(42)	0	(2)
（デザイン情報コース）	(32)	(32)	(0)	(32)	0	(0)
食物栄養学科	42	40	0	40	0	2
社会福祉学科	61	57	1	58	0	3
合 計	179	170	2	172	0	7(3.9%)

(2) 平成 18 年度入学生

単位：人

	入学生	H19 年度 卒業生	H20 年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	63	52	5	57	0	6
（経営情報コース）	(33)	(27)	(2)	(29)	(0)	(4)
（デザイン情報コース）	(30)	(25)	(3)	(28)	(0)	(2)
食物栄養学科	47	40	3	43	0	4
社会福祉学科	53	52	0	52	0	1
合 計	163	144	8	152	0	11(6.7%)

(3) 平成 19 年度入学生

単位：人

	入学生	H20 年度 卒業生	H21 年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	65	58	4	62	0	3
（経営情報コース）	(37)	(34)	(2)	(36)	(0)	(1)
（デザイン情報コース）	(28)	(24)	(2)	(26)	(0)	(2)
食物栄養学科	45	44	1	45	0	0
社会福祉学科	52	50	2	52	0	0
合 計	162	152	7	159	0	3(1.8%)

(4)平成20年度入学生

単位：人

	入学生	H21年度 卒業生	H22年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	75	68	0	68	5	2
（経営情報コース）	(40)	(36)	(0)	(36)	(4)	(0)
（デザイン情報コース）	(35)	(32)	(0)	(32)	(1)	(2)
食物栄養学科	42	42	0	42	0	0
社会福祉学科	51	46	0	46	1	4
合 計	168	156	0	156	6(3.6%)	6(3.6%)

(5)平成21年度入学生

単位：人

	入学生	H22年度 卒業生	H23年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	67	—	—	—	0	2
（経営情報コース）	(35)	—	—	—	(0)	(1)
（デザイン情報コース）	(32)	—	—	—	(0)	(1)
食物栄養学科	42	—	—	—	1	0
社会福祉学科	53	—	—	—	0	0
合 計	162	—	—	—	1(0.6%)	2(1.2%)

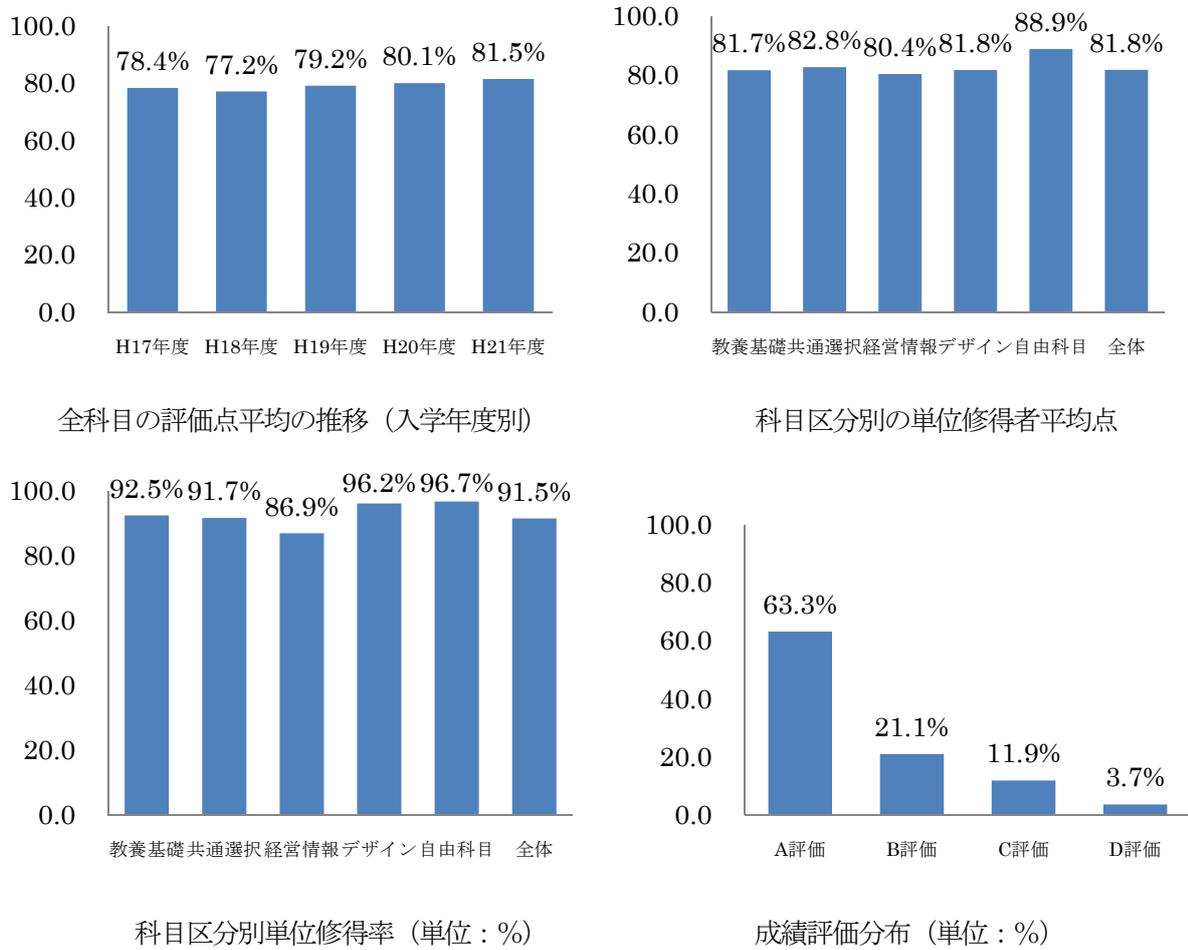
(6)平成22年度入学生

単位：人

	入学生	H23年度 卒業生	H24年度 以降卒業生	卒業生計	留年・ 休学者数	退学者
産業情報学科	64	—	—	—	0	0
（経営情報コース）	(33)	—	—	—	(0)	(0)
（デザイン情報コース）	(31)	—	—	—	(0)	(0)
食物栄養学科	42	—	—	—	0	0
社会福祉学科	53	—	—	—	0	0
合 計	159	—	—	—	0	0

産業情報学科の卒業研究は現在の社会的課題や地域と強く結びついたテーマが多く観点6-1-①で記したように、多くの機会を通じて社会に還元するのに相応しいレベルのものとなっている。その活動の様子や成果については、地元紙に掲載されている（資料6-1-2-A）。また、産業情報学科は資格取得学科ではないことから、その5年間の学業成績を検証すると、全科目における平均点は100点満点中79.3点であるが、図6-1のように年々上昇してきており、評価の分布状況や科目区分別の単位修得率や評価点などから教育の効果が上がっている。

図6-1 産業情報学科における学業成績（平成17年度～21年度入学生）



食物栄養学科では、栄養士実力試験の評価(平成21年度)は、A認定90.5%、B認定9.5%、C認定0%であった。全国平均はA認定56.7%、B認定34.1%、C認定9.2%となっており、本学はA認定が全国平均を大きく上回っている。

栄養士免許については、平成19年度、平成20年度とも、2年間で卒業した者全員が取得できている。フードスペシャリスト資格試験の合格率は、平成19年度が81.5%、平成20年度が95.0%、平成21年度が94.4%であり、全国平均がそれぞれ77.9%、80.2%、83.9%であるのでこれを上回っている。栄養情報担当者受験資格取得者については平成19年度が35名(取得率87.5%)であり、平成20年度は39名(取得率88.6%)に微増した(表6-2)。

表6-2 食物栄養学科 資格取得状況

免許等の種類	平成19年度	平成20年度		平成21年度	
	18年度入学生	19年度入学生	19年度卒業生	20年度入学生	20年度卒業生
学位	40	44		42	
栄養士免許	40	44		42	
フードスペシャリスト受験資格	28	40		38	
フードスペシャリスト資格	22 (27名受験) (合格率81.5%)	38 (40名受験) (合格率95.0%)	4 (4名受験)	34 (36名受験) (合格率94.4%)	2 (2名受験)
栄養情報担当者受験資格	35	39		33	

社会福祉学科においては、卒業後相談援助業務を2年間経験して社会福祉士国家試験受験資格を得ることになる。平成21年度は卒業生の中から7名の合格者を輩出し（合格率25.9%）、福祉系短大等で実務経験を経ての合格率では全国でも有数の実績を確保している（資料6-1-2-B「第22回社会福祉士国家試験学校別合格率」<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000004ugd-img/2r98520000004uvx.pdf>）。これは、本学科として、在学時に福祉的専門性を身に付け、かつ科学的に洞察するための知識を習得させるべく適切なカリキュラム構成により教育を行っていることによる成果といえる。

保育士資格に関しては、毎年度、資格取得希望者のほぼ全員が資格取得ができています。これは、1年前期から保育士資格取得に係る志望動機のレポート課題を課し、保育士としての専門教科の理解度や適性について精査していることによる教育効果の結果である。

なお、社会福祉主事任用資格については、卒業生全員が取得している。

社会福祉学科の資格取得状況については、社会福祉士国家試験受験資格の取得率が、平成19年度100%、平成20年度89.7%、平成21年度95.8%、保育士資格の取得率は平成19年度100%、平成20年度93.1%、平成21年度100%となっている（表6-3）。

表6-3 社会福祉学科資格等取得状況

単位：人

資格等の種類	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	平成18年度入学生	平成19年度入学生	平成20年度入学生
学 位	52	50	48
社会福祉士国家試験受験資格	31 (取得率100.0%)	25 (取得率89.7%)	23 (取得率95.8%)
保育士資格	36 (取得率100.0%)	27 (取得率93.1%)	26 (取得率100.0%)
社会福祉主事任用資格	52	50	48

※ 取得率＝取得者数 / 資格コース履修登録者数

社会福祉学科の特別演習（ゼミ）は、行政機関や社会福祉施設でのフィールドワークや地域でのボランティア活動を通して社会問題への意識を高める、保育所で実際に子どもたちの前でペープサートや絵本を見せての保育技術披露を行う、乳幼児の発達を理解する、児童を取り巻く社会問題について調査研究をするなど、多岐にわたっている。すべてのゼミにおいて、卒業研究は卒業論文集としてまとめられ、短期大学生としての水準を確保している。また、卒業研究発表会を学科内で開催したり、福祉現場で実践研究発表を行うことにより教育の効果は上がっている。

【分析結果とその根拠理由】

平成17年度から20年度までの入学生のうち、95.1%の学生が必要単位を取得して卒業している。

産業情報学科では、卒業研究の成果を多くの機会を通して社会に還元し、その活動の様子や成果が地元紙に掲載されるなど高いレベルにあること、また、単位取得が一定の水準でなされていることから、各学年や卒業時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。

食物栄養学科と社会福祉学科においてはそれぞれの資格取得状況から各学年や卒業時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、教育の成果や効果が上がっている。

以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点 6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点到係る状況】

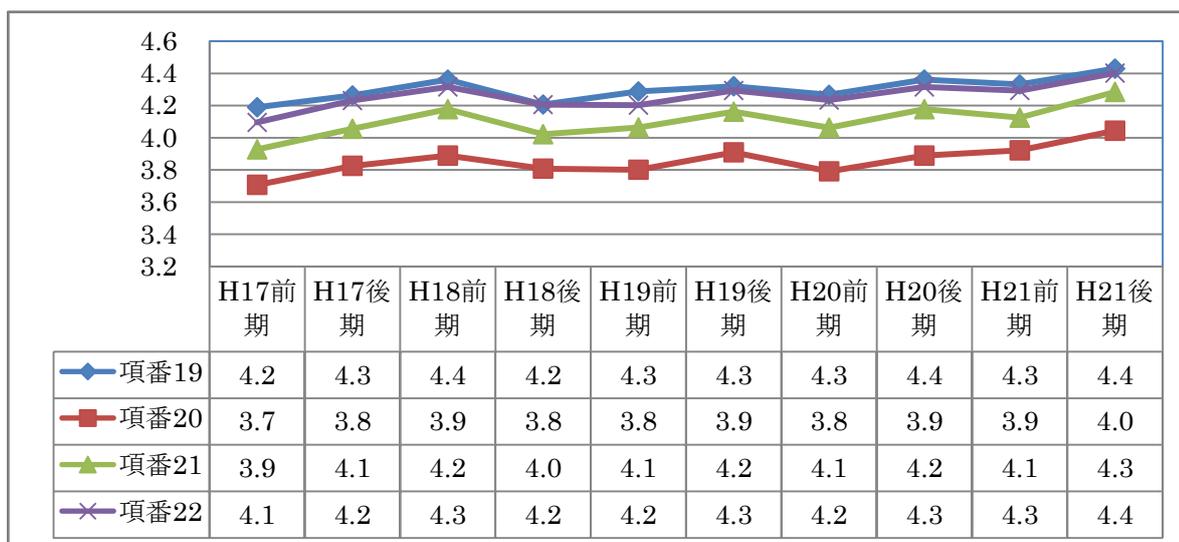
本学では各学期の終了直前に学生による授業評価を、各学年末には在学生による本学評価を実施し集計結果を学内ウェブに公開している（別冊資料C 自己点検・評価報告書 P164～171「学生による授業評価」、P172～192「在学生による本学評価」）。学生による授業評価は平成 11 年度に常勤教員を対象に前期 35 科目、後期 25 科目で紙媒体によるアンケート形式で始まった。平成 15 年度からはウェブを用いた入力方法に変更し、非常勤教員担当科目を含めた全科目とした。平成 16 年度に一時科目数が減少したが翌年からは原則全科目（学外実習等本制度に馴染みにくいと判断された科目を除く）に戻った。在学生による本学評価は平成 16 年度から学科学年毎に設問項目を設定し行っている。どちらの評価も制度的に定着しており、多角的な質問項目で構成されている。

平成 17 年度前期以降の「学生による授業評価」における総合評価に関する設問項目の回答結果を見ると、5 段階評価の 4 前後で推移しており、ここ 5 年間の状況をみると緩やかな上昇傾向にある（図 6-2）。また、「在学生による本学評価」における「本学へ入学した目的に対する現時点での達成度」に関する設問項目の回答は、これもわずかではあるが全項目にわたって上昇している（図 6-3）。これらのことから、教育成果や効果は上がっているといえる。

【分析結果とその根拠理由】

学生による授業評価によると総合評価は 5 段階評価の 4 前後であり、ここ 5 年間の状況をみると年々緩やかな上昇傾向にある。また、在学生による本学評価では「目的に対する現時点での達成度」がわずかではあるが上昇している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

図 6-2 「学生による授業評価」総合評価に関する設問項目の評価値の推移



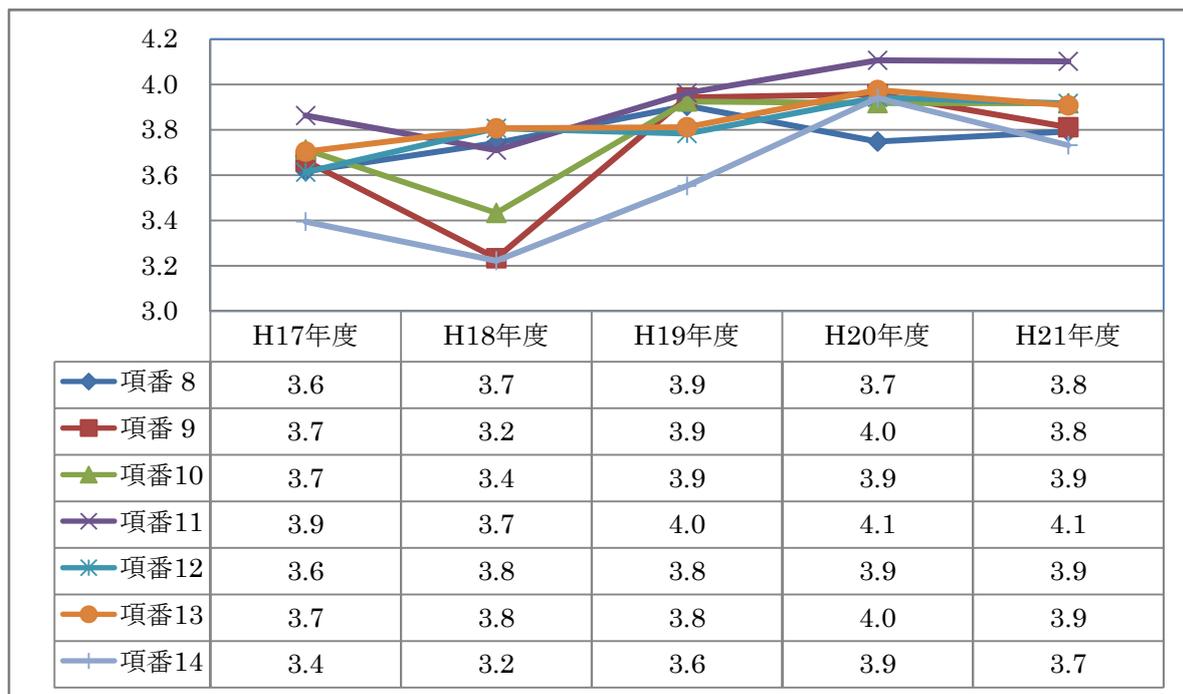
※1 「学生による授業評価」の設問内容は、「授業計画」「授業方法」「受講態度」「総合評価」の四部門で構成されており、このうち「総合評価」に関する設問項目の評価値の推移を表したもの。

2 数字は、5点満点評価の平均値。

3 「総合評価」に関する設問は次の4項目から成る。

- (1) 項番 19 この授業は自分にとって意義深いものであった
- (2) 項番 20 授業の内容は、ほぼ理解できた
- (3) 項番 21 この分野に関して、専門的な関心や興味がもてるようになった
- (4) 項番 22 この授業はよい授業であった

図6-3 本学に入学した目的に対する現時点での達成度の推移



※ 「本学に入学した目的に対する現時点での達成度」の設問は次の7項目から成る。

- (項番 8) 入学時の目的を達成できている
- (項番 9) 将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である
- (項番 10) 実践的知識・技術・技能を身につけることができている
- (項番 11) 専門分野の学問を修得することができている
- (項番 12) 自分の学力は向上している
- (項番 13) 広く教養が身につく総合的能力が向上している
- (項番 14) サークル活動等を通じて人間性を養うことができている

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

卒業生の進路状況について、平成 21 年度の就職決定率（就職者数／就職希望者数）は 95.9%であり、全国短大平均の 88.4%を上回った（図6-4）。また、四年制大学への編入学希望者の進路達成率（進学者数／進学希望者数）は 100%であった。過去 5 年間の推移においては、就職決定率の 5 年間平均は 98.0%（全国短大：92.5%）

であり、いずれの年度においても全国平均を上回った。進学達成率については、平成 18 年度の 97.0%を除き 100%を達成した(表 6-4)。学科関連領域への就職状況については、産業情報学科経営情報コース並びに資格取得に重点を置いている食物栄養学科及び社会福祉学科において、過去 3 年間の平均が 80%を上回っている(別冊資料 C 自己点検・評価報告書 P53~56「進路指導の達成状況」)。

図 6-4 就職決定率の推移

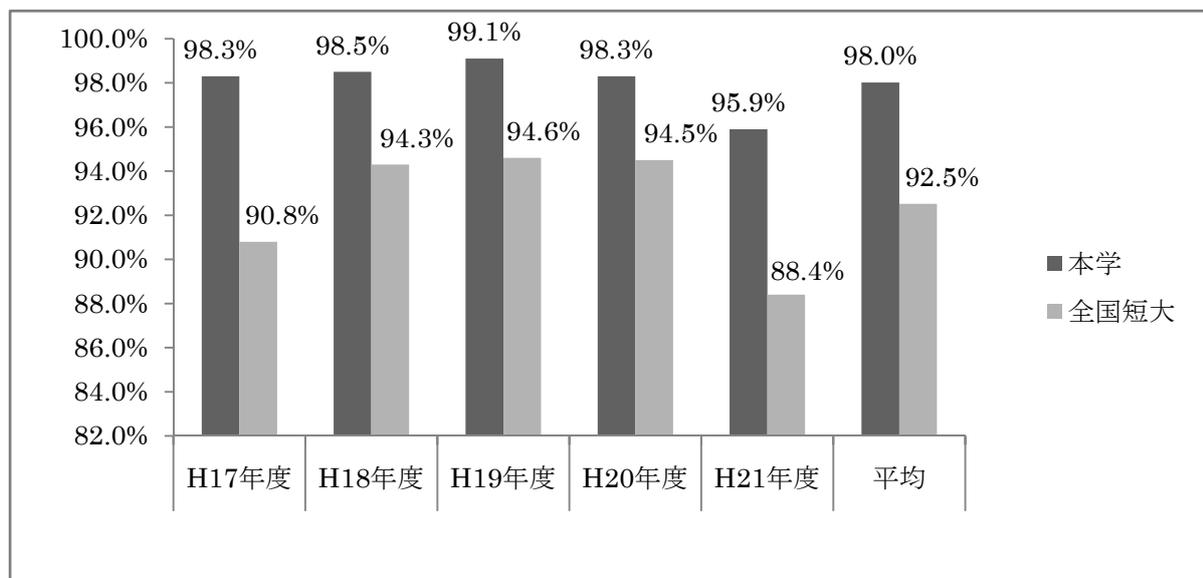


表 6-4 進路決定状況の推移

	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	平均
①卒業生数 (a)	153	171	145	159	164	
就職希望者数 (b)	119	131	108	118	121	
②就職決定者数 (c)	117	129	107	116	116	
就職未定者数	2	2	1	2	5	
③就職決定率 (c/b)	98.3%	98.5%	99.1%	98.3%	95.9%	98.0%
進学希望者数 (d)	24	33	31	33	29	
④進学決定者数 (e)	24	32	31	33	29	
進学未定者数	0	1	0	0	0	
⑤進学決定率	100.0%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
⑥その他	10	7	6	8	14	

就職先としては、産業情報学科では金融業、情報サービス業、製造業、印刷業、建設業、運輸業のほか各業界や公務に及ぶ。食物栄養学科では委託給食・産業給食を始めとして民間・公務において栄養士の資格を活かした職場への就職率が、過去 5 年間に於いて 90%前後で推移している。栄養士資格を活かした就職率が全国平均で 40%台であることから、その 2 倍という高率を維持している。社会福祉学科では福祉施設等への就職が大半であるが、保育士の資格を活かせる保育所勤務数が各年度において最も多い。

編入進学先については、東北・関東甲信越地方の国公立大学が各学科とも多い(別冊資料A 大学案内 P10、14、

22、30、別冊資料F 卒業生名簿)。

【分析結果とその根拠理由】

就職決定率が過去5年間全国短大の平均値を上回り、就職決定状況は非常に良好である。また、各学科・コースとも、卒業生のほとんどが、本学で学んだ学問分野の関連領域への就職や学科で取得できる資格を活かせる職種に就職し、関連領域の四年制大学等に進学している。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

「卒業生による本学の評価」については、ホームページ上に調査項目を設け、卒業生に任意に回答してもらうようにしている。集計結果(<http://www.jc.u-aizu.ac.jp/topix/090528.pdf>)からは94%の者が大学で学んだことが役に立っているとしている。

また本学では、進路指導委員会が、卒業生を継続的に雇用している事業所等の関係者宛のアンケートを平成18年度から実施している(別冊資料G 卒業生勤務先へのアンケート結果)。アンケートの結果、「与えられた課題を最後までやり抜く粘り強さがある」「職場の上司・同僚とうまく協力して仕事ができる」「新しい課題に取り組む熱意・意欲がある」の項目で高評価を得ている。本結果については、教授会で報告するほか、全1年生対象の進路ガイダンスにおいても説明し、学生に問題意識を持たせる取組みをしている。

卒業生からの意見聴取は、各学科の年間行事において卒業生を招いて交流する機会を設けることによって実施し、進路活動における注意事項や現場での業務経験を踏まえての就職・進学をするための具体的なアドバイスを得るなど、卒業生との交流を通じて情報交換をしている(別冊資料A 大学案内 P10、14、22、30、資料6-1-5-A オリエンテーションキャンプ実施報告書)。また、「キャリア開発論」の講師には、卒業生や就職先企業の採用部門責任者も含まれるので、卒業生に対する評価を直接尋ねる機会が設けられている。

編入学生については、国公立大学等の教員による本学への出講や学会参加の機会を捉えて、本学教員が聞き取りをしている。本学卒業生に対しては、編入学先のゼミで活躍するなどの事例もあり高い評価を受けている。

【分析結果とその根拠理由】

「卒業生による本学評価」では9割以上が本学で学んだことを効果的であったと評価していること、また、卒業生勤務先へのアンケート結果及び本学を尋ねて来る卒業生勤務先の人事担当者との情報交換から、本学卒業生の職場での仕事ぶりに関する高評価が得られている。以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教養基礎科目、専門教育科目とも良好な授業評価を得ている。また、全国平均を上回る就職率を確保し、学科関連領域への就職率や資格取得率が高い。さらに、編入進学においても関連領域の国公立大学への進学が多くなっている。

【改善を要する点】

教育の成果や効果を更に検証するために、本学卒業生に対するアンケート回収数の増加を図る方策について検討を要する。

(3) 基準6の自己評価の概要

- ・教育目標の学生への浸透は入学時のオリエンテーションを始めとして、多くの機会を利用して行われている。そして、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像に照らして、教育の成果や効果が上がっていることは、卒業研究発表会の実施や論文集や報告要旨集、作品集の発行などから検証している。平成17年度以降の入学生は94.2%が学業を順調に修め、専門領域を中心とした就職や国公立大学等への進学、さらに目標とした資格の取得を実現している。(観点6-1-①、②、④)
- ・学生授業評価は学内全科目について行われ、概ね高水準の評価を受けていると同時に、問題点に対する教員側からの回答によって、授業改善に役立っている。(観点6-1-③)
- ・卒業生及び就職先アンケートからも高い評価結果が得られている。(観点6-1-⑤)